ICOM

取扱説明書

車載型デジタル簡易無線機
IC-DPR1

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品は、防水構造ではありません。
雨水などでぬれやすい場所には設置しないでください。
設置方法は、取り付けガイド（別紙）をご覧ください。

チャンネルについて

◎CH1 ～ CH14、CH16 ～ CH30　:陸上用チャンネル
◎CH15(呼出CH)★1　:呼出用チャンネル
◎CH S1 ～ CH S5★2　:上空用チャンネル

★1 一時的な呼び出しをするとき使用します。(☞Pvi、P6)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

★2 上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(☞P38)に設定されています。

登録商標/著作権について

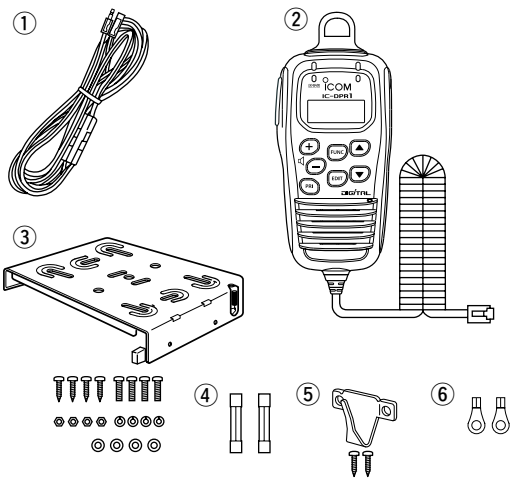
アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本製品のフォントは、リョービのフォントを採用しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

付属品について

① DC電源ケーブル…… 1
② マイクロホン…… 1
③ モービルブラケット……1式
④ 予備ヒューズ(125V/5A)…… 2
⑤ マイクハンガー (取り付けネジ付き)…… 1
⑥ DC電源ケーブル用圧着端子…… 2

取扱説明書(本書)　保証書
取り付けガイド　愛用者カード
申請書類一式



本製品の概要について

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。

◎弊社製携帯型デジタル簡易無線機(IC-DPR5)と組み合わせて、簡単なデジタル無線システム運用ができます。

◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせると、ご自宅で運用できます。

◎デジタル通信により、高音質な交信ができます。

◎プライベートチャンネルスキャン機能により、指定した2つの通話チャンネルの信号を交互に受信できます。

◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★

★ AMBE+2™ 方式を採用している機種に対応しています。

はじめに

電波法上のご注意

◎無線局の運用に当たっては、1局当たり年間380円(包括登録申請)/400円(登録申請)の電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)

◎登録局の有効期限は、登録日から5年間です。
再登録の申請は、免許の切れる3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。

◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR1用アンテナについて」を参考にしてください。
技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。

◎他局の通信を妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎本製品は、日本国内における陸上で運用する無線機です。
上空、および海上での運用はできませんのでご注意ください。
上空、および海上で運用されますと、無線局登録状の範囲を超えた運用となり、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

自動車運転時のご注意

◎安全運転のため、運転中にマイクロホンを操作したり、マイクロホンの表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
マイクロホンを操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

取り扱い上のご注意

◎電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。
◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本機の電源を「OFF」にしてください。
◎磁気カードを無線機やマイクロホンに近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。

はじめに

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。
子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

ユーザー登録について

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要になります。
付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。
また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、http://www.icom.co.jp/ にアクセスいただき、サポート情報からユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。
弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書3章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

①相手と同じ通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)に合わせます。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

①通話チャンネルを「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。

※空いている通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)を事前に確認しておきます

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

③通話チャンネルを通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

◎通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)には、ユーザーコード★(☞P10)、および秘話キー★(☞P13)を設定できます。

★同じ設定の相手とだけ通話できます。

◎プライベートチャンネル機能(☞P25)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)の切り替えに便利です。

◎プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

もくじ

はじめに ―――――――――――――― i

チャンネルについて…… i
登録商標/著作権について …… i
付属品について……ii
本製品の概要について……ii
電波法上のご注意…… iii
自動車運転時のご注意…… iv
取り扱い上のご注意…… iv
放熱について……v
ユーザー登録について……v
個人情報の取り扱いについて……v
基本的な運用手順について…… vi

安全上のご注意 ――――――――――――ix

1.各部の名称と機能 ―――――――― 1

■ マイクロホン …… 1
■ 表示部 …… 3
■ 無線機本体 …… 4

2.はじめての通話 ―――――――――― 5

■ 通話するときのアドバイス …… 9

3.簡単なグループ通話のしかた ――― 10

4.盗聴防止の設定をするには ――――― 13

5.個別呼び出し機能による通話 ――― 16

■ 呼び出しかたの種類について …… 16
■ 個別呼び出し機能を設定するには …… 17
■ 個別呼び出し機能で通話するには …… 19

6.そのほかの機能について ――――― 23

■ ロック機能 …… 23
■ モニター機能 …… 23
■ 送信出力の切り替え …… 24
■ ポケットビープ機能 …… 24
■ プライベートチャンネル機能 …… 25
■ プライベートチャンネルスキャン機能 …… 26
■ 着信履歴機能 …… 27

7.各種機能の設定 ―――― 28

■「セットモード」に移行するには …… 29
■「詳細セットモード」に移行するには …… 29
■ 設定のしかた …… 30
■ 設定項目について …… 30

8.ご参考に ―――― 40

■ 日常のお手入れと点検について …… 40
■ ヒューズの交換について …… 40
■ 故障かな?と思ったら …… 41
■ アフターサービスについて …… 42
■ 周波数一覧表 …… 43

9.別売品一覧 ―――― 44

■ 別売品についてのご注意 …… 44

10.定格 ―――― 45

■ 無線機本体 …… 45
■ マイクロホン …… 45

簡単ご利用ガイド ―――― 46

さくいん ―――― 48

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

◎ **使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。**
◎ **次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
◎ **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】
お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

◎**引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎**電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

⚠警告

◎**民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎**煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

◎**マイクロホンのケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。**
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。

◎**DC電源ケーブルを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**卓上電源装置(別売品)、12Vバッテリー、24Vバッテリー以外の電源を使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**DC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。**
ショートして発火の原因になります。

◎**DC電源ケーブルが傷ついている場合や、接続がゆるい場合は使用しないでください。**
ショートして発火の原因になります。

◎**長時間使用しないときは、バッテリーや卓上電源装置(別売品)からDC電源ケーブルまたは電源ケーブルを抜いてください。**
発熱、火災の原因になります。

◎**雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、DC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルには、絶対触れないでください。**
感電の原因になります。

◎**DC電源コネクター、または卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルにホコリが付着したまま使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**DC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**指定以外のヒューズを使用しないでください。**
火災、故障の原因になります。

⚠警告

◎**付属または指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。また、ご自分で修理しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎**線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**本製品は、防水構造ではありませんので、雨水などでぬれやすい場所には設置しないでください。**
感電、故障の原因になります。

⚠注意

◎ **ぬれた手でDC電源コネクター、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブル、または機器に絶対触れないでください。**
感電の原因になることがあります。

◎**各コネクター部に金属片やゴミを付着させないでください。**
ショートして発火の原因になることがあります。

◎ **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

◎**落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。

◎**ぐらついた台の上や傾いたり、振動が多かったりする場所に設置しないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

◎**本製品の上に乗ったり、重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**
故障の原因になることがあります。

⚠注意

◎**指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。**
送信中のアンテナは高電圧になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。

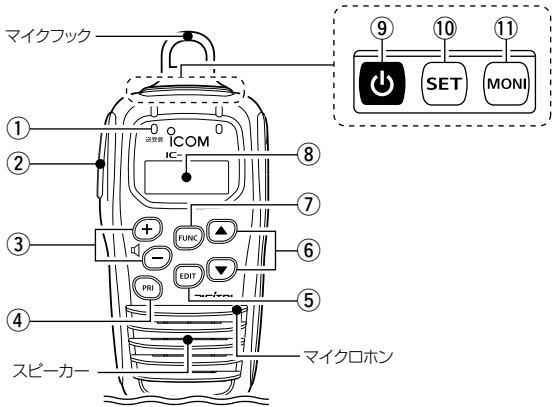
◎**DC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブル、接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持ってください。**
感電やショートして発火の原因になることがあります。

◎**インバーター内蔵の電子機器の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**長時間使用すると、後面部の温度が高くなりますので、後面部に触れないでください。**
また、周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
やけどすることがあります。

1 各部の名称と機能

■ マイクロホン



① **[送受信]ランプ**
[PTT]スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

② **[PTT(送信)]スイッチ**
[PTT]スイッチを押すと「送信」状態、はなすと「受信」状態になります。(☞P6、P7)
※電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P9)

③ **音量([+]/[−])キー**
[+]を押すと音量が大きくなり、**[−]**を押すと音量が小さくなります。音量は0〜32のあいだで調整できます。(☞P5)
[+]/[−]を押しつづけると、連続動作します。

④ **[PRI]キー**
「ピピッ」と鳴るまで長く(約1秒)押すごとに、プライベートチャンネル表示(☞P25)と通話チャンネル表示を切り替えます。
プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)が設定されている場合、**「プッ」**と鳴るまで、さらに長く(約2秒)押すと、プライベートチャンネルスキャンを開始します。
※[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを短く押すと、プライベートチャンネルスキャンを解除します。
※「詳細セットモード」の「プライベートチャンネルスキャン」の設定値を「ON」にする必要があります。(☞P36)
※工場出荷時や全設定初期化時は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

⑤ **[EDIT]キー**
長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W〈High〉/1W〈Low〉)を切り替えます。(☞P24)
※ユーザーコード(☞P11)、秘話キー(☞P14)の設定では、短く押すごとに、編集できる桁を切り替えます。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞7章)のときは、短く押すごとに、設定項目を逆送りで切り替えます。

⑥ **[▲](アップ)/[▼](ダウン)キー**
通話チャンネル(☞P6、P19)、ユーザーコード(☞P11)、秘話機能(☞P14)、秘話キー(☞P14)、相手局番号(☞P20)の各表示項目の設定内容を切り替えます。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞7章)のときは、押すごとに、各設定項目の設定内容を選択できます。

⑦ **[FUNC]キー**
短く押すごとに、各表示項目を「通話チャンネル」(☞P6)→「ユーザーコード」(☞P11)→「秘話機能」(☞P14)の順に切り替えます。
長く(約1秒)押すごとに、ロック機能(☞P23)の「ON」/「OFF」を切り替えます。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞7章)のときは、短く押すごとに、設定項目を順送りで切り替えます。
※ **[FUNC]**キーを短く押す操作は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択(☞P6)したときだけ無効になります。

⑧ **表示部**
無線機の使用状態(☞P3)を表示します。

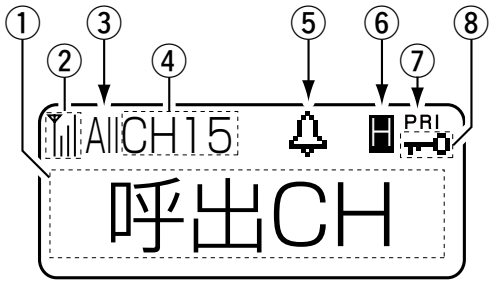
⑨ **[電源]キー**
長く(約1秒)押すごとに、電源を「ON」/「OFF」します。(☞P5)

⑩ **[SET]キー**
押すごとに、通話チャンネル表示とセットモード(☞P29)を切り替えます。
いったん電源を切って、**[SET]**キーを押しながら電源を入れると、詳細セットモード(☞P29)に切り替えます。

⑪ **[MONI]キー**
押しているあいだモニター機能が動作します。(☞P23)
※音を聞きながら音量を調整するときや秘話機能(☞P13)を使用しない他局の通話を聞くときなどに使用します。

1 各部の名称と機能

■ 表示部



① [相手局番号/設定内容]表示
音量(0～32)、通話チャンネル(☞P6、P19)、ユーザーコード(☞P10)、秘話キー(☞P13)、相手局番号(☞P20)、「セットモード」や「詳細セットモード」(☞7章)で選択した設定項目や設定内容などを表示します。

② 電波状態表示
受信している電波の強度を、下記の３段階(目安)で表示します。

※「 」は、電波が届いていないときでも表示されています。

③ 個別呼び出し(All/)モード表示
個別呼び出し機能(☞P16)が設定されているとき表示します。
All：全局呼び出しとなる項目が表示されているとき
： 相手からのグループ呼び出しを許可するグループ番号が表示されているとき(☞P18、P33)

④ 操作状態の表示
ユーザーコード(☞P10)、秘話キー(☞P13)、呼出CH(☞P16)を表示したとき、または個別呼び出し機能で相手局番号(☞P20)、グループ番号(☞P20)を表示したときに、通話チャンネルを④の部分に表示します。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞7章)のときは、④の部分に「SET」、または「FUNC」などを表示します。
「FUNC」は、個別呼び出し機能が設定された状態で、**[FUNC]**キーを押したとき表示する項目を意味します。
秘話設定時は、「CH」が白黒反転表示します。
秘話なしで、①の表示がチャンネル番号を表示しているときは、空白になります。

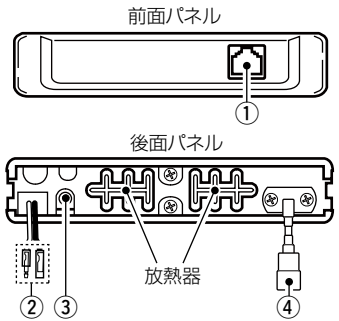
⑤ (ベル)
通話相手から個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。
ポケットビープ機能(☞P24)が設定されているときは、表示します。

⑥ **[H/L(5W/1W:送信出力)/R(受信専用)]表示**
各通話チャンネルの送信出力(High/Low)、または上空用チャンネル(受信専用)の設定状態を表示します。(☞P24、P38)
H:5W(High)設定時に点灯
L:1W(Low)設定時に点灯
R:上空用チャンネル(S1 ～ S5)選択時に点灯

⑦ **[PRI(プライベートチャンネルスキャン)]表示**
プライベートチャンネルスキャン(☞P26)中に表示します。

⑧ **[🔒(ロック機能)]表示**
ロック機能(☞P23)を「ON」に設定したとき表示します。

■ 無線機本体



①マイクジャック
付属のマイクロホンを接続します。

②DC電源コネクター (動作範囲:DC12V/24V)
付属品のDC電源ケーブルを使用して、車載バッテリー(DC12V/DC24V)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)に接続します。

③外部スピーカージャック(φ:3.5mm)
外部スピーカー (別売品:SP-30)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)を接続します。(☞P44)
インピーダンスは4Ωです。

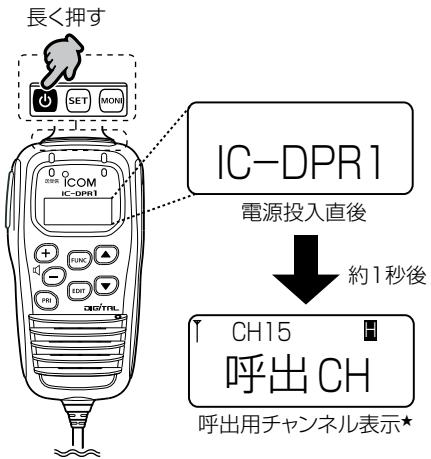
④アンテナコネクター
アンテナを接続するM型コネクターです。
インピーダンス50Ωのアンテナを接続します。

2 はじめての通話

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 電源を入れる

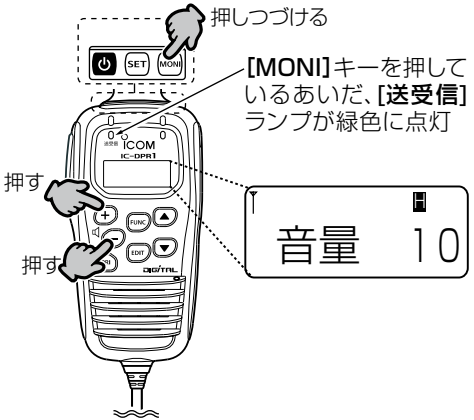
[電源]キーを長く(約1秒)押して、電源を入れます。
電源を入れると、ビープ音が**「ピー」**と鳴ります。



★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)を表示します。(☞P6)
運用後は、前回通話した通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)を表示します。

2 音量を調整する

[+]/[−]キーを押して音量(例:10)を調整します。
● 調整範囲:0 ～ 32
モニター機能(☞P23)が設定されている場合、何も音が出ていない状態での調整は、**[MONI]**キーを押しているあいだ、**「ザー」**という音が出ますので、この音を聞いて調整します。
調整後は、**[MONI]**キーをはなします。



[ご注意]
音量が最小のときは、操作音(ビープ音)や受信した音声は聞こえません。

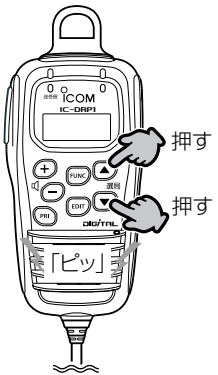
3 通話チャンネルを合わせる

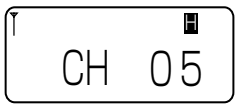
[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

- 選択範囲:01 ～ 14、16 ～ 30

※ 通話チャンネルとは、通話に使用する周波数(☞P43)のことです。相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

※ [▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを押しつづけると連続動作し、「CH 01」になると、**「ピピッ」**と鳴って一時的に停止します。





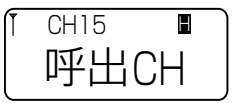
05チャンネルを選択したとき

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P10)や秘話機能(☞P13)を使用できません。

「呼出CH」で呼出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)に切り替えてから通話してください。



呼出用チャンネル表示

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。

【マイクロホンの使いかた】

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

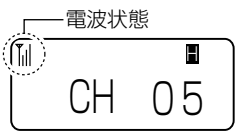
マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

受信中は、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P3)を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送受信]**ランプが消灯しています。



受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※ 相手が送信しているときは、**[PTT(送信)]**スイッチを押しても混信防止機能(☞P9)が動作して、ビープ音が**「ブッブッブッ…」**と鳴りつづけ、送信できません。
相手の通話が終了してから、送信してください。

※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

7 電源を切る

使用後は、**[電源]**キーを長く(約1秒)押します。

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。

※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。
表示内容を変更後に電源を切るときは、２秒以上経過してから電源を切ってください。

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、**「5分以内」**と電波法で定められています。
制限時間の**10秒前**になると、ビープ音が**「ピッ 」**と鳴ります。
連続通話時間が5分になると、警告音が**「ブッ 」**と鳴って、自動的に送信を停止します。
※送信を自動停止すると、 1分間は通話できません。
通話を再開する場合は、 1分後に**[PTT(送信)]**スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線通信は、自分が送信中に、ほかの人が同じ通話チャンネルで送信すると混信を受け、通話ができない場合があります。
逆に、ほかの人と同じ通話チャンネルで自分が送信すると、ほかの人に混信を与え、通話を妨害することがあります。
無線通信によるこのような混信を防止するため、キャリアセンス機能は、送信しようとする通話チャンネルが、ほかの人によって使用されていない場合は送信でき、ほかの人によって使用されている場合は、送信できないように制御します。
本製品では、通話が3秒以上途切れると、キャリアセンス機能が動作します。
なお、ほかの電子機器から、本製品で使用する通話チャンネルと同じ周波数の電波を受信した場合(混信や妨害波含む)についても、送信できないことがありますが、故障ではありません。

3. 電波干渉について

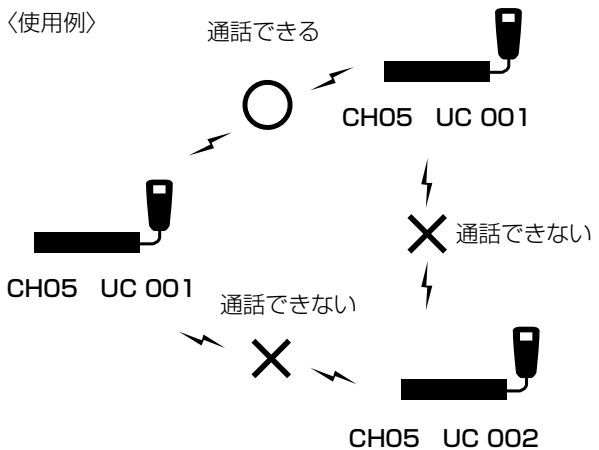
比較的せまいエリアで、多くの局が交信するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。
このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。
◇ 通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)
見通しのよい場所 :約10km
市街地や建物内 :約1 ～ 3km
◇ 交信範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞P6)とユーザーコードの2つが一致したすべての相手と通話できます。

〈使用例〉



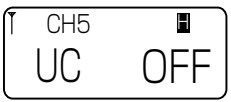
[ご参考]
「詳細セットモード」(☞P29)で、通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定できます。(☞P32)
通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定する場合、通話チャンネルを選択してから右記の手順でユーザーコードを設定してください。

1 UC(ユーザーコード)表示にする

① **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)を選択(☞P6)します。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)のときは、秘話機能を使用できないため、手順②の操作はできません。

② **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「UC OFF」表示を選択します。
- 「通話チャンネル(例:CH05)」→「UC OFF」→「秘 話 OFF」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えて、何も操作しない状態(約10秒)にすると、通話チャンネル表示に戻ります。
※「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。
※ 秘話機能(☞4章)や個別呼び出し機能(☞5章)と併用できます。

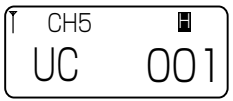


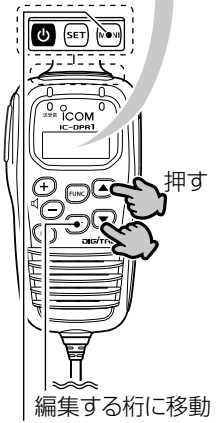
ユーザーコード表示

2 ユーザーコードを設定する

[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

- 選択範囲:OFF(000)、001 ～ 511

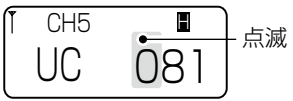




【編集できる桁を変更するには】

① **[EDIT]**キーを1回、または繰り返し押します。

- 編集できる桁が点滅します。



短く1回押したとき
(例：上位1桁目)

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、ユーザーコードを選択します。

※ **[MONI]**キーを押すと、編集前の内容に戻ります。

③内容を確定するときは、**[FUNC]**キーを押す、または**[EDIT]**キーを繰り返し押します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

3 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送受信]ランプ**が赤色に点灯します。

※ 設定したユーザーコードは、通話チャンネル(例:CH05)の右側に表示(例:081)されます。

※通話チャンネルごとのユーザーコードを使用しているときに、ユーザーコードを設定していない通話チャンネルを選択すると、通話チャンネルの右側に「OFF」が表示されます。

4 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ通話チャンネルとユーザーコードで通話する相手局の音声を受信できます。

受信中は、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P3)を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送受信]**ランプが消灯しています。

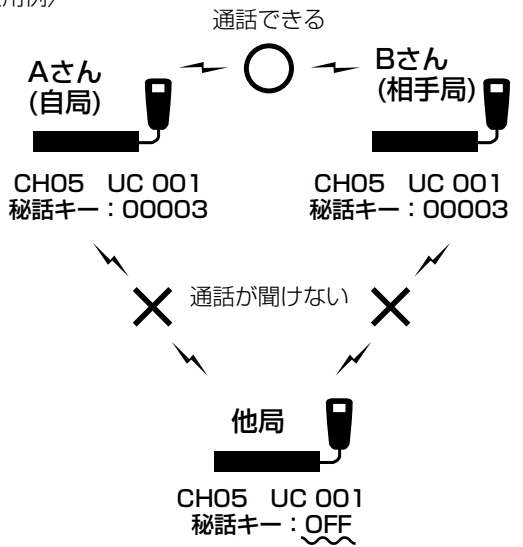
受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

4 盗聴防止の設定をするには

秘話機能が設定されていないほかの相手から、通話内容が盗聴されるのを防止できます。

〈使用例〉



※ 上記の〈使用例〉で、秘話機能を使用する人(Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(他局)の通話が聞こえます。

[ご参考]
詳細セットモード(☞P29)で、通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを切り替えできます。(☞P31)
通話チャンネルごとに異なる秘話キーを設定する場合、通話チャンネルを選択してから下記の手順で設定してください。

1 秘話表示にする

① **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)を選択(☞P6)します。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル: CH15)のときは、秘話機能を使用できないため、手順②の操作はできません。

② **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「秘話 OFF」表示を選択します。
- 「通話チャンネル(例:CH05)」→「UC OFF」→「秘話 OFF」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えて、何も操作しない状態(約10秒)にすると、通話チャンネル表示に戻ります。
※ ユーザーコード(☞3章)や個別呼び出し機能(☞5章)と併用できます。

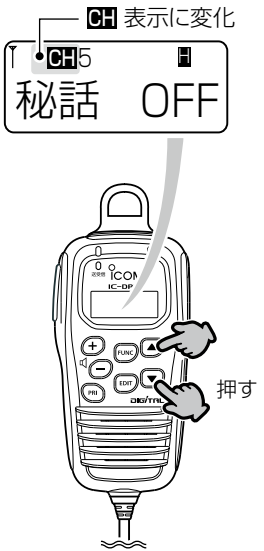
2 秘話機能をONにする

[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

- 「ピピッ」と鳴って、「CH」表示になります。

※「秘話 ON」の場合、「秘話 OFF」に設定して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえ(盗聴され)ません。

※通話チャンネルごとに秘話機能を設定した場合、「秘話 ON」のチャンネルを選択した時だけ、「CH」表示になります。

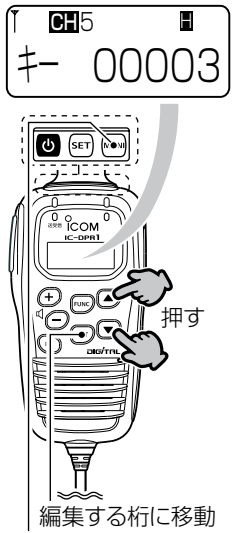


[ご注意]
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。
また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

3 秘話キーを設定する

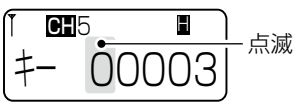
① [EDIT]キーを1回押します。
- 秘話キーを表示します。

② [▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー (5桁)を設定します。
- 選択範囲:00001 ～ 32767



【編集できる桁を変更するには】

① [EDIT]キーを2回、または繰り返し押します。
- 編集できる桁が点滅します。



[EDIT]を押したとき(例：上位1桁目)　編集する桁に移動　編集取り消し

② [▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、秘話キーを選択します。
※ [MONI]キーを押すと、編集前の内容に戻ります。

③内容を確定するときは、[FUNC]キーを押す、または[EDIT]キーを繰り返し押します。
- 「秘話 ON」を表示します。
※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

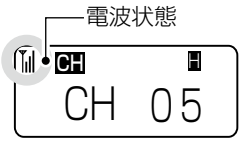
[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ秘話キーの相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

受信中は、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P3)を表示します。
待ち受け状態のときは、**[送受信]**ランプが消灯しています。



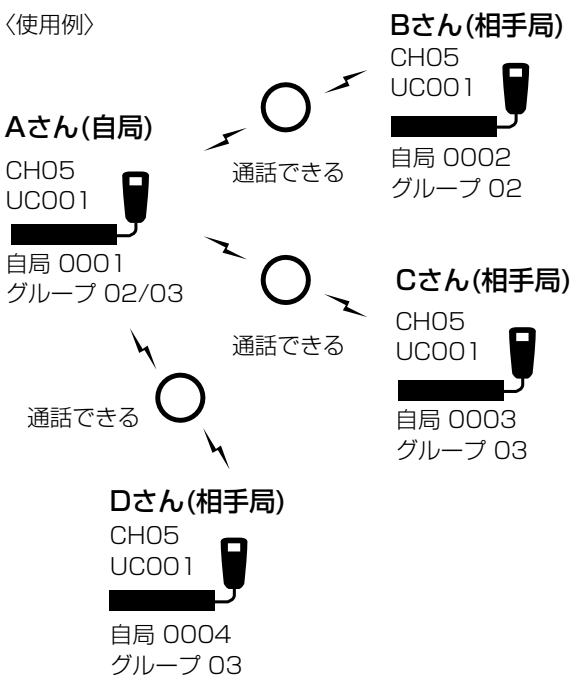
受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、秘話キーが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。



呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

◎全局呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

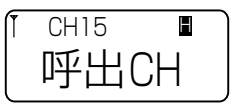
◎個別呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(☞P18)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】

CH15は、呼出用チャンネル(☞P6)で、「呼出CH」と表示されます。

「呼出CH」表示のときは、ユーザーコード(☞P10)や秘話機能(☞P13)、個別呼び出し機能を使用できませんので、ご注意ください。



呼出用チャンネル表示

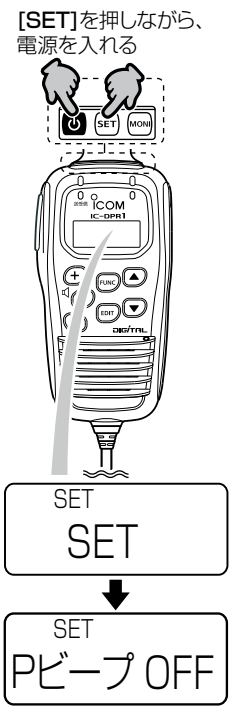
■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細セットモードにする

①本製品の電源を切ります。
② **[SET]**キーを押しながら、電源を入れます。
- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、[Pビープ]を表示すれば、「詳細セットモード」に移行しています。

※この章の説明で使用する設定値は、〈使用例〉(☞P16)の図に記載の値を使用しています。



2 個別呼び出し機能を設定する

① **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「個別 OFF」表示を選択します。(☞P32)
② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、「ON」にします。

SET
個別 ON

※個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
2～5の手順で記載する設定値は、〈使用例〉(☞P16)の図に記載の値を使用して説明しています。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

① **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「自局 0001」表示を選択します。(☞P32)

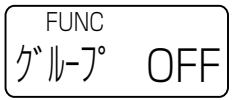
自局
自局 0001

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、自局番号を設定します。
〈設定例〉
個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局)	:0001	Bさん(相手局)	:0002
Cさん(相手局)	:0003	Dさん(相手局)	:0004

4 グループ番号表示を設定する

① **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「グループ OFF」表示を選択します。(☞P33)



② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、「グループ ON」表示にします。

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

5 グループ呼び出しのメンバー指定

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「グループ 01」表示を選択します。(☞P33)

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、指定するグループ番号を選択します。

③ 選択したグループ番号(例:グループ 02)を表示した状態で、**[MONI]**キーを押します。

● メンバー指定を意味する ✓ を表示します。

メンバー指定の状態

※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。

〈メンバー指定するグループ番号の例〉

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

Aさん(自局)　:グループ02/グループ03
Bさん(相手局) :グループ02
Cさん(相手局) :グループ03
Dさん(相手局) :グループ03

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

6 設定値を確定する

1 ～ 5 の手順で変更した設定値を確定するために、[SET]キーを押します。

- 「詳細セットモード」が解除され、設定した自局番号を表示(約1秒)します。

※設定値をすべて変更後に、[EDIT]キー、または[FUNC]キーを押し、電源を切った場合でも、設定値が確定できます。

※「詳細セットモード」を解除するまで通話できません。

【自局番号表示例】

電源投入直後　　自局番号表示例★

★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/相手局番号/グループ番号)によって異なります。

■ 個別呼び出し機能で通話するには

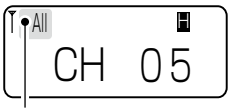
相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(☞P16 ～ P19)されているものとして説明しています。

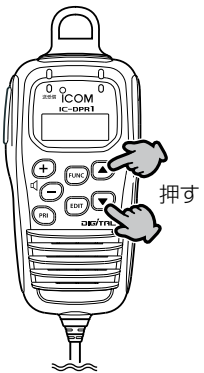
1 通話チャンネルを合わせる

[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

- 「All」(全局)を表示します。



全局呼び出し表示



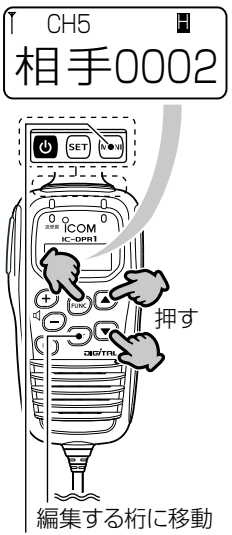
〈全局呼び出し表示で、[PTT(送信)]スイッチを押すと〉

通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)、ユーザーコード、秘話機能の設定が同じすべての相手を呼び出しできます。

あらかじめ、自局番号を通話相手に知らせるときなどに使用できます。

2 相手局番号を合わせる

▶1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

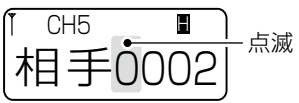


① **[FUNC]**キーを繰り返し短く押して、「相手局番号」(出荷時の設定:0002)表示を選択します。

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。

【編集できる桁を変更するには】

①「相手局番号」表示の状態で、**[EDIT]**キーを短く1回、または繰り返し押します。
- 編集できる桁が点滅します。

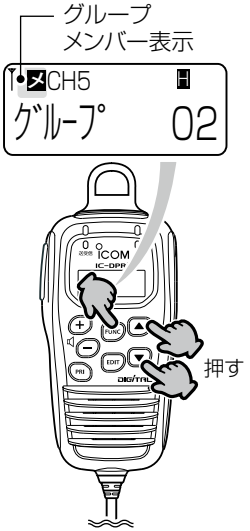


短く1回押したとき(例:上位1桁目)

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、相手局番号を選択します。
※ **[MONI]**キーを押すと、編集前の内容に戻ります。

③内容を確定するときは、**[EDIT]**キーを繰り返し押す、または**[FUNC]**キーを押します。
- 桁の点滅が点灯に変わります。

▶グループを呼び出すときは



① **[FUNC]**キーを繰り返し押して、「グループ番号(例:グループ01)」表示を選択します。

② **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:02)に合わせます。

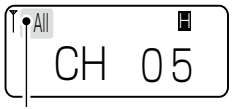
※通話相手の無線機側でメンバー指定(✓)をしていないグループ番号(☞P33)と同じ番号を選択して呼び出しをしても、その相手には、自分の音声が聞こえません。
ただし、その相手から最初に呼び出しがあったときは、相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示(☞P22)しますので、呼び出しを受ける前の表示に戻る(終話する)までに、**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、応答できます。
終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にする(☞P7)ことで、通話をつづけられます。

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出す

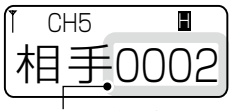
① 呼び出す前に、現在の表示内容を確認します。
表示内容によって、**3とおりの呼び出しかた**ができます。

◎ **全局呼び出しをする場合**
「通話チャンネル」表示
(例:CH 05)
※ユーザーコード(☞P10)が「OFF」に設定されている場合



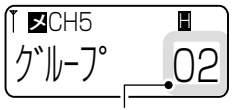
全局呼び出し表示

◎ **個別呼び出しをする場合**
「相手局番号」表示
(例:相手0002)



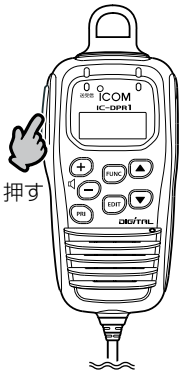
相手局番号表示

◎ **グループ呼び出しをする場合**
「グループ番号」表示
(例:グループ 02)



グループ番号表示

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
- **[送受信]**ランプが赤色に点灯します。



4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、応答できます。

◎全局呼び出しを受けたとき

相手局番号とALLを交互に点滅表示します。

相手局番号を点滅表示　　ALLを点滅表示

◎個別呼び出しを受けたとき

相手局番号を点滅表示します。
ポケットビープ機能(☞P24、P30)を設定しているときは、ビープ音(☞P30)が鳴ります。

相手局番号を点滅表示

※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

◎グループ呼び出しを受けたとき

相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示します。

相手局番号を点滅表示　　グループ番号を点滅表示

6 そのほかの機能について

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやスイッチに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[FUNC]キーをビープ音が**「ピピッ」**と鳴るまで長く(約1秒)押します。

● を表示します。

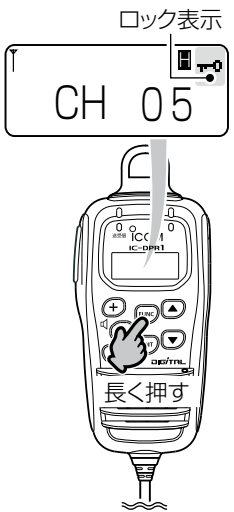
※ロック機能動作中に、無線機のキーやスイッチを操作すると、**「キーロック」**と表示します。

※同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

◎ロック機能の解除
◎**[PTT(送信)]**スイッチ
◎**[MONI]**キー
◎**[電源]**キー
◎**[+]/[−]**キー★

★「詳細セットモード」から音量調整のロック(☞P35)をするように設定できます。



■ モニター機能

[MONI]キーを押しているあいだ、有効になります。

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎受信音がない状態で、**「ザー」**という音を聞きながら音量を調整するとき
◎ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき
※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。
◎プライベートチャンネルスキャン(☞P26)中、スキャンを一時的に停止して、電波の有無を確認するとき

※「詳細セットモード」の設定によって、**[MONI]**キーの動作(☞P35)を変更できます。

[MONI]キーを押しているあいだ、**[送受信]**ランプが緑色に点灯

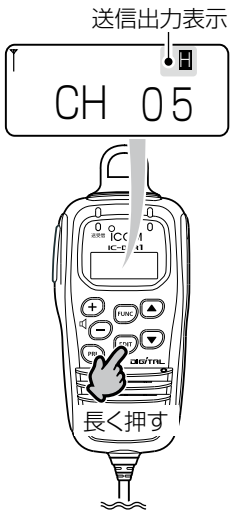
■ 送信出力の切り替え

[EDIT]キーを長く(約1秒)押すごとに、送信出力の「5W(High)」/「1W(Low)」を切り替えできます。

◎5W(High)は「H」、1W(Low)は「L」を表示します。

◎通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

※上空用チャンネル(☞Pi、P43)表示(S1 ～ S5)のときは、「R」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。



■ ポケットビープ機能

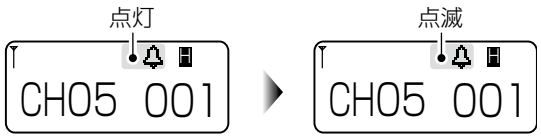
下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。「詳細セットモード」(☞P30)から設定を変更できます。

【ユーザーコード(☞P10)による呼び出しを受けたとき】

🔔の点滅とビープ音でお知らせします。

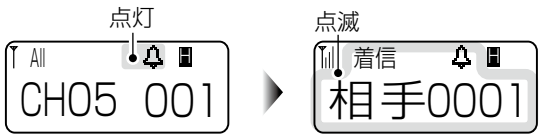


【個別呼び出し(☞P16)による呼び出しを受けたとき】

ビープ音でお知らせします。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、🔔の点滅だけになります。



6 そのほかの機能について

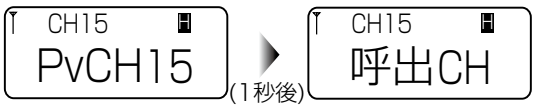
■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネル(例:呼出CH)をプライベートチャンネルに設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH01)との切り替えを容易にできます。

【操作のしかた】

[PRI]キーをビープ音が**「ピピッ」**と鳴るまで長く(約1秒)押します。

● 下記の表示に切り替わります。

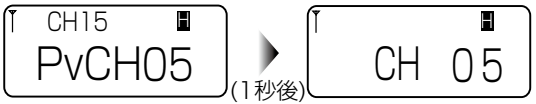


プライベートチャンネル表示　　呼出用チャンネル表示

※ プライベートチャンネルに設定した通話チャンネルを選択しているときは、**[PRI]**キーの操作は無効です。

※ 工場出荷時や全設定初期化時は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。
「詳細セットモード」(☞P36)から設定を変更できます。

※ 下記は、通話チャンネル(例:CH 05)をプライベートチャンネルに設定したときの表示です。



プライベートチャンネル表示　　通話チャンネル表示

【切り替える前の通話チャンネルに戻すには】

[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを押します。

■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 01)を受信しながら、プライベートチャンネルに設定した通話チャンネル(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

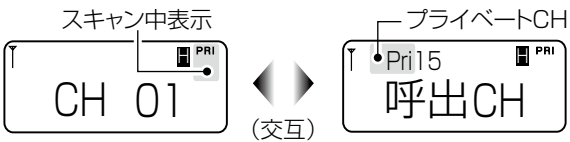
【操作のしかた】

[PRI]キーをビープ音が**「プッ」**と鳴るまで長く(約3秒)押します。

- プライベートチャンネルスキャンを開始します。

※ 押しつづけると、最初に**「ピピッ」**と鳴りますが、**「プッ」**と鳴るまで、**[PRI]**キーを押してください。

※ 呼出CH(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



通話チャンネル表示　　呼出用チャンネル表示

※ プライベートチャンネルに設定した通話チャンネルを選択しているときは、**[PRI]**キーの操作は無効です。

※ **[MONI]**キー、または**[電源]**キー以外を操作すると、プライベートチャンネルスキャンを解除できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。「詳細セットモード」(☞P36)から設定を変更できます。

【スキャン動作について】

◎ 通話チャンネル(例:CH 01)で待ち受け中は、2秒ごとにプライベートチャンネル(例:呼出CH)をスキャンします。

◎ プライベートチャンネルに電波がないときは、すぐに通話チャンネル(例:CH 01)に戻ります。

◎ 通話チャンネル(例:CH 01)で電波を受信中は、5秒ごとにプライベートチャンネル(例:呼出CH)をスキャンします。

◎ プライベートチャンネル(例:呼出CH)で電波を受信中は、「詳細セットモード」のスキャン停止時間(☞P37)とスキャン再開時間(☞P37)の設定にしたがってスキャンします。

※スキャン停止時間とスキャン再開時間の設定は、プライベートチャンネルで信号を受信したとき、有効です。

◎ 下記の場合は、[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーでスキャンを再開できます。

- 「詳細セットモード」のスキャン再開時間(☞P37)を「シナイ」に設定したとき
- 個別呼び出し機能(☞P16)で使用時、自局番号で個別呼び出しを受けたとき

◎ 上空用チャンネル(S1 ～ S5)が設定(☞P38)されている場合は、上空用チャンネルをスキャンの対象にできます。

◎ 待ち受け中に呼び出しをする場合は、通話チャンネル(例:CH01)で送信します。

■ 着信履歴機能

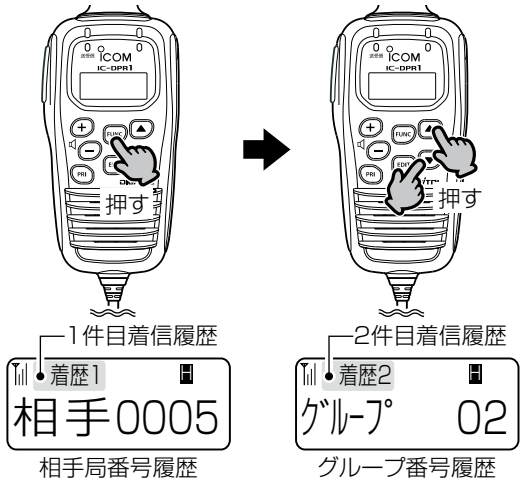
個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。
着信履歴機能を有効にすることで、記憶された相手局の番号を利用して呼び出しできます。

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

①下図のように、「着歴1」と表示されるまで、**[FUNC]**キーを繰り返し押します。

②着信履歴が2件以上の場合は、「着歴1」表示の状態で、**[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押すと、確認できます。

※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。



③呼び出す相手の番号を表示した状態で、**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

- **[送受信]**ランプが赤色に点灯します。

【着信履歴の内容や件数に異常があると思われたときは】

「セットモード」の着信履歴消去(☞P34)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、全設定初期化(☞P39)してください。

【着信履歴機能を利用するには】

工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

着信履歴を利用する場合は、「詳細セットモード」(☞P34)から設定を変更してください。

履歴消去は、「セットモード」(☞P34)からできます。

※ 最大10件の着信履歴を記憶できます。
10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。

※ 全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

「セットモード」、または「詳細セットモード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。
各機能は、運用状況に応じて、お好みの設定に変更してください。

機能名称	名称表示	初期値	参照
ポケットビープ	Pビープ	OFF	P30
秘話	秘話	CH共	P31
マイクゲイン	マイクG	MID	P31
バックライト	ライト	ON	P31
バックライトの明るさ	輝度	4	P31
ユーザーコード	UC	CH共	P32
個別呼び出し	個別	OFF	P32
自局番号設定★1.	自局	0001	P32
相手局番号表示★1.	相手	ON	P33
グループ番号表示★1.	グループ(FUNC)	OFF	P33
メンバー指定★2.	グループ(グリスト)	未指定	P33
着信履歴★1.	着歴	OFF	P34
終話後表示★1.	終表	話前	P34
着信履歴消去★1.	履歴	ーーー	P34

★1.個別呼び出しの設定が「ON」のとき、設定できる機能です。
★2.グループ番号表示が「ON」のとき、設定できる機能です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
[MONI]キーの動作	MONI	PUSH	P35
音量調整のロック	VOL	可変	P35
外部スピーカー	EXSP	ON	P35
プライベートチャンネル	PvCH	ON	P35
プライベートチャンネルの設定★3.	CH	呼出	P36
スキャン★3.	Scn	OFF	P36
スキャン停止時間★4.	停止	10S	P37
スキャン再開時間★4.	再開	5S	P37
通話後スキャン動作★4.	話後	解除	P38
上空用チャンネル	SkyR	OFF	P38
全設定初期化	リセット	NO	P39

★3.プライベートチャンネルの設定が「ON」のとき、設定できる機能です。
★4.スキャンの設定が「PScn」のとき、設定できる機能です。

■「セットモード」に移行するには

マイクゲインの設定、バックライトの設定、バックライトの明るさ設定、着信履歴の消去★1、外部スピーカーの設定に使用します。

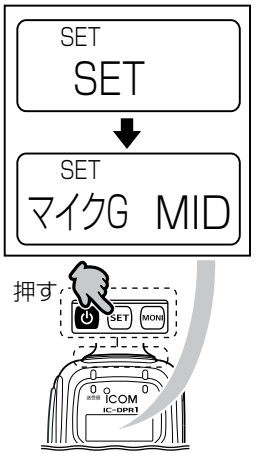
★1.個別呼び出しの設定が「ON」のとき、設定できる機能です。

【操作のしかた】

① 本製品の電源を入れます。

② **[SET]**キーを押します。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、[マイクG]を表示すれば、「セットモード」に移行しています。



■「詳細セットモード」に移行するには

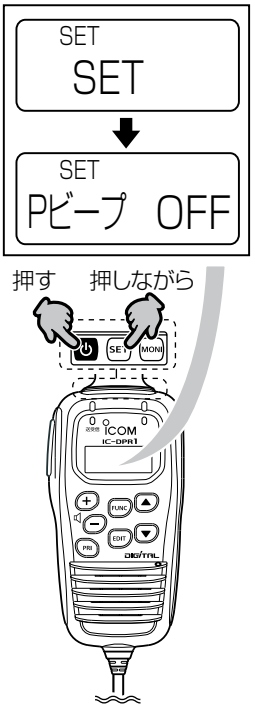
すべての機能(☞P28)が変更できます。

【操作のしかた】

① 本製品の電源を切ります。

② **[SET]**キーを押しながら、電源を入れます。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、[Pビープ]を表示すれば、「詳細セットモード」に移行しています。



■ 設定のしかた

「セットモード」、または「詳細セットモード」に移行(☞P29)後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[FUNC]**キー、または**[EDIT]**キーを繰り返し押します。
- 設定項目が切り替わります。

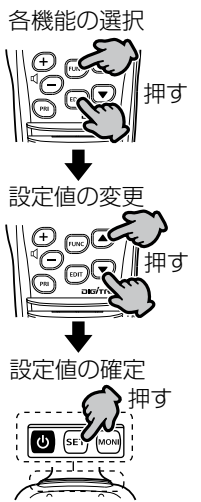
②目的の機能名称で、**[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押します。
- 設定値が切り替わります。

※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[SET]**キーを押します。
- 選択した設定値を確定し、「セットモード」、または「詳細セットモード」が解除されます。

※設定値を変更後に、**[EDIT]**キー、または**[FUNC]**キーを押すと、そのまま電源を切った場合でも、設定値が確定できます。

※「セットモード」、または「詳細セットモード」を解除するまで通話できません。



■ 設定項目について

◇ ポケットビープ (初期設定値:OFF)

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF :ポケットビープを使用しない
- 30F :「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3F :「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- MIN :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- CON :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- PI ー :「ピー 」と音が1回鳴る
- PPP :「ピピピ」と音が1回鳴る

※ グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープを「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

■ 設定項目について(つづき)

◇ 秘話 (初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

- CH共 :通話チャンネル共通の秘話キーを使用する
- CH毎 :通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する

◇ マイクゲイン (初期設定値:MID)

マイクロホンの感度を設定します。

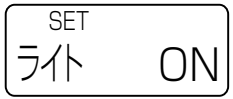
- MID :中
- HI :高
- LOW :低

※ 周囲の騒音が大きい場所では、「LOW」に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、「HI」に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

◇ バックライト (初期設定値:ON)

マイクロホンの表示部、キーの照明の動作を設定します。

- ON :常時点灯する
- AUTO :電源を入れたときや、**[PTT]**スイッチを除く各キーを操作したとき、照明が約5秒点灯する



◇ バックライトの明るさ (初期設定値:4)

マイクロホンの液晶、キーのバックライトの明るさを設定します。

- 選択範囲:1 ～ 7

◇ ユーザーコード (初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- CH共 :通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- CH毎 :通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

◇ 個別呼び出し (初期設定値:OFF)

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 自局番号設定 (初期設定値:0001)

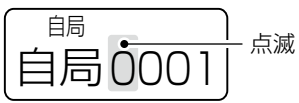
「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲:0001 ～ 9999

【編集できる桁を変更するには】

①**[EDIT]**キーを長く(約1秒)押します。

- 上位1桁目が点滅します。



②上位2桁目以降は、**[EDIT]**キーを繰り返し押します。

③編集が完了したら、**[FUNC]**キーを押します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 相手局番号表示 (初期設定値:ON)

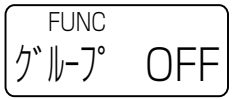
「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**キーを繰り返し押したとき、相手局番号(相手の自局番号)を選択する項目の表示について設定します。

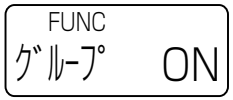
- ●ON :表示する
- ●OFF :表示しない

◇◇ グループ番号表示 (初期設定値:OFF)

「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**キーを繰り返し押したとき、グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。

- ●OFF :表示しない
- ●ON :表示する





◇◇グループ番号表示(つづき)

◇◇◇ メンバー指定 (初期設定値:メンバー指定なし)

「個別」(個別呼び出し)と「グループ」(グループ番号表示)を「ON」に設定したとき、表示されます。

この項目でメンバー指定(■ 点灯)したグループ番号(01 ～ 10)でグループ呼び出しを受けると着信します。

- ● ■ 点灯:指定する
- ● ■ 消灯:指定しない

※ 設定は、**[MONI]**キーを押すごとに、切り替わります。

※ 複数のグループ番号をメンバーに指定できます。
指定するグループ番号の選択は、**[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを押します。

※ メンバー指定をしていないグループ番号(■ 消灯)でグループ呼び出しを受けても、着信しません。

◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 着信履歴 (初期設定値:OFF)

「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴(☞P27)として表示する設定です。

- ●OFF :表示しない
- ●ON :表示する

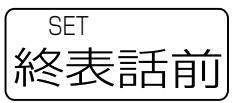
※ 着信履歴は、「着歴 OFF」のときも記憶されます。

◇◇ 終話後表示 (初期設定値:話前)

「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、通話を終了後、待ち受け状態になったときの表示内容を設定します。

- ●話前 :通話前の表示に戻る
- ●CH :全局、またはグループ呼び出しを受けたときだけ、通話チャンネル表示に戻る

※ 個別呼び出しを受けた場合は、相手局番号を点滅表示します。(☞P23)



◇◇ 着信履歴消去 (初期設定値:ーーー)

「個別」(個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。

- ●ーーー :**[SET]**キーを押しても、消去されない
- ●CLR :**[SET]**キーを押すと、消去される

※「CLR」を選択後、**[SET]**キーを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「 ーーー 」に切り替わります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ [MONI]キーの動作 (初期設定値:PUSH)

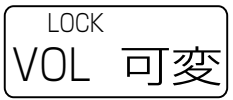
[MONI]キーの動作を設定します。

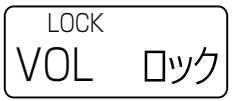
- PUSH :押しているあいだだけモニター機能(☞P23)をONに切り替える
- CH :押すと、表示を通話チャンネルに切り替える
- OFF :**[MONI]**キーの動作を無効にする
- TGL :押すごとに、モニター機能のON/OFFを切り替える

◇ 音量調整のロック (初期設定値:可変)

ロック機能(☞P23)動作中の音量調整について設定します。

- 可変 :音量を調整できる
- ロック :ロック機能を設定する直前に調整された音量で固定します。





◇ 外部スピーカー (初期設定値:ON)

外部スピーカー接続時にマイクロホンのスピーカーから音を出すか出さないかを設定します。

- ON :音が出る
- AUTO :音が出ない

◇ プライベートチャンネル (初期設定値:ON)

プライベートチャンネル機能(☞P25)を設定します。

- ON :使用する
- OFF :使用しない

※「ON」に設定すると、**[PRI]**キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

◇ プライベートチャンネル(つづき)

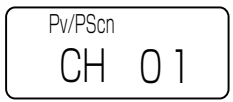
◇◇ プライベートチャンネルの設定 (初期設定値:呼出)

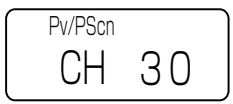
「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示され、通話チャンネル(01 ～ 30)、または上空用チャンネル(S1 ～ S5)からプライベートチャンネルを設定します。

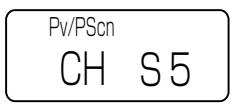
- 選択範囲:01 ～ 30、S1 ～ S5

※ 上空用チャンネル(S1 ～ S5)をプライベートチャンネルに設定する場合は、「SkyR」(上空用チャンネル)を「ON」に設定してください。

※ 上空用チャンネル(S1 ～ S5)をプライベートチャンネルに設定した状態で、「SkyR」(上空用チャンネル)を「OFF」に設定すると、プライベートチャンネルは、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に設定されます。







◇◇ スキャン (初期設定値:OFF)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示され、プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を設定します。

- OFF :使用しない
- PScn :使用する

※「PScn」に設定すると、**[PRI]** キーによるプライベートチャンネルスキャン(☞P26)の開始操作が有効になります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ プライベートチャンネル(つづき)

◇◇ スキャンの設定(つづき)

◇◇◇ スキャン停止時間 (初期設定値:10S)

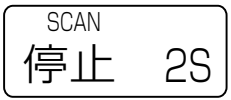
「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

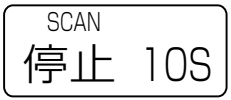
プライベートチャンネルに設定した通話チャンネル(例:呼出CH)の電波を受信中、プライベートチャンネルスキャンを停止する時間を設定します

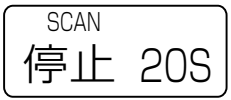
- 選択範囲: 2S ～ 20S (2S刻み)、保持

※ 電波を受信中に、スキャン停止時間(2S ～ 20S)が経過すると、スキャンを再開します。なお、スキャン停止時間(2S ～ 20S)が経過する前に信号が途切れたときは、スキャン再開時間の設定にしたがってスキャンを再開します。

※「保持」を設定したときは、待ち受け状態になるまで、スキャンを停止します。







◇◇◇ スキャン再開時間 (初期設定値:5S)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

スキャン停止時間が経過する前に信号が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

- 即時 :すぐにスキャンを再開
- 1S ～ 5S :設定時間後にスキャンを再開
- シナイ :**[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーの操作でスキャンを再開

◇ プライベートチャンネル(つづき)

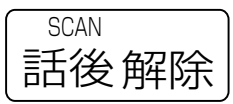
◇◇ スキャンの設定(つづき)

◇◇◇ 通話後スキャン動作 (初期設定値:解除)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

スキャン中、**[PTT(送信)]**スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- 解除 :スキャンを解除
- 再開 :数秒後、スキャンを再開



◇ 上空用チャンネル (初期設定値:OFF)

上空用チャンネル(S1 ～ S5)の使用を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「ON」に設定すると、通話チャンネルから選択(☞P6、P19)できます。

※ 上空用チャンネルでは、送信できません。

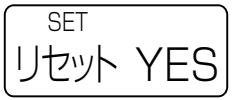
■ 設定項目について(つづき)

◇ 全設定初期化 (初期設定値:NO)

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- NO :**[SET]**キーを押しても、初期化しない
- YES :**[SET]**キーを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[SET]**キーを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。



[ご注意]

◎全設定初期化(リセット)すると、前の設定には戻せません。

◎設定値がリセットされ再起動するまでの約3秒は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 日常のお手入れと点検について

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通信状態に変化がないか調べてください。

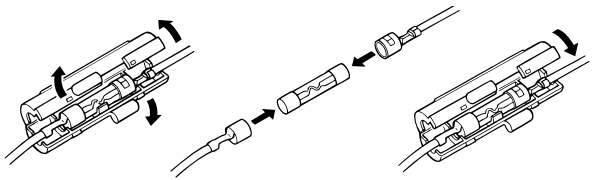
◎音量が最小に調整されていないか、マイクロホンの **[MONI]** キーを押しながら **[+]/[−]** キーを押して、表示部の音量表示(☞P11)を確認してください。

◎車載でご使用になるときは、車載用アンテナが運転中にはずれると大変危険ですから、基台やアンテナが確実に固定されていることを点検してください。

■ ヒューズの交換について

付属のDC電源ケーブルには、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。



8 ご参考に

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター (☞P42)までお問い合わせください。

現　象	原　因	処　置	参照
電源が入らない	DC電源ケーブルの接触不良	バッテリーまたは卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続しなおす	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P40
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量調整値を確認する ※実際の音量を確認しながら調整する場合は、**[MONI]**キーを押しながら**[+]**/**[−]**キーを押して音量を確認する	P5
	外部スピーカーの接触不良	外部スピーカーが正常に接続されてるか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
送信できない **(プップッ・・・が鳴る)**	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P9
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[送受信]ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P9
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P6
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P10
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P13
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P20
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P9
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の操作ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)に変更する	P6
キーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P23

■ アフターサービスについて

「故障かな？と思ったら」(☞P41)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◎ **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

◎ **弊社製品のお問い合わせ先について**

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社　サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00 ～ 17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

◎ 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

8 ご参考に

■ 周波数一覧表

本製品のチャンネル(CH)には、下記の周波数が割り当てられています。

〈陸上用チャンネル〉

CH	送/受	周波数(MHz)
01	送受	351.20000
02	送受	351.20625
03	送受	351.21250
04	送受	351.21875
05	送受	351.22500
06	送受	351.23125
07	送受	351.23750
08	送受	351.24375
09	送受	351.25000
10	送受	351.25625
11	送受	351.26250
12	送受	351.26875
13	送受	351.27500
14	送受	351.28125
16	送受	351.29375

CH	送/受	周波数(MHz)
17	送受	351.30000
18	送受	351.30625
19	送受	351.31250
20	送受	351.31875
21	送受	351.32500
22	送受	351.33125
23	送受	351.33750
24	送受	351.34375
25	送受	351.35000
26	送受	351.35625
27	送受	351.36250
28	送受	351.36875
29	送受	351.37500
30	送受	351.38125

〈呼出用チャンネル〉

CH	送/受	周波数(MHz)
15	**送受**	**351.28750**

※本製品では、CH15(呼出用チャンネル)を「呼出CH」と表示します。(☞Pi)

〈上空用チャンネル〉

CH	送/受	周波数(MHz)
S1	受	351.16875
S2	受	351.17500
S3	受	351.18125
S4	受	351.18750
S5	受	351.19375

※出荷時、上空用チャンネルは、「OFF」(☞P38)に設定されています。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

◎PS-230A
卓上電源装置

◎OPC-647
マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)

◎SP-30
外部スピーカー

定格出力　　:20W
インピーダンス :4Ω

◎アンテナ
ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR1用アンテナについて」を参考にしてください。

10 定格

■ 無線機本体

◎送信周波数範囲:351.20000～351.38125MHz
◎受信周波数範囲:351.16875～351.38125MHz
◎チャンネル数:30チャンネル(送信)
30+5チャンネル★1.(受信)
★1.上空用チャンネル(S1～S5)
◎電波型式:F1E/F1D/F1F
◎変調方式:4値FSK
◎使用温度範囲:−20～+60℃
◎電源電圧:13.8V±10%/26.4V±10%
◎消費電流:[13.8V時] 2.0A(送信時:5W)
1.3A(受信時)★2.
600mA(待ち受け時)
[26.4V時] 1.5A(送信時:5W)
800mA*(受信時)★2.
400mA(待ち受け時)
★2.4Ω負荷、音量最大時
◎送信出力:5W/1W(偏差:+20%、−50%)
◎低周波出力:4W以上(4Ω、10%歪時)
◎接地方式:マイナス接地
◎アンテナインピーダンス:50Ω(不平衡)
◎受信方式:ダブルスーパーヘテロダイン方式
◎受信感度:0.35μV以下
(BER=1×10^{-2} スタティック時)
0.90μV以下
(BER=3×10^{-2} フェージング時)
◎外形寸法:125(W)×25(H)×160.7(D)mm★3.
★3.突起物を除く
◎重量:約580g(本体のみ)
約790g(マイクロホン装着時)

■ マイクロホン

◎使用温度範囲:−20～+60℃
◎低周波出力:400mW以上(8Ω、10%歪時)
◎出力インピーダンス:8Ω
◎外形寸法:63.5(W)×125(H)×31.4(D)mm★4.
★4.突起物を除く
◎重量:約210g

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

ICOM

簡単ご利用ガイド

IC-DPR1

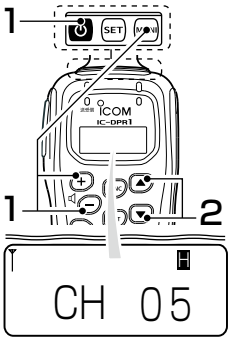
このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手元に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※ 破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

切り取り線

1. 電源を入れ、音量を調整する(☞P5)

❶ **[電源]**キーを長く(約1秒)押します。
- ビープ音が**「ピー」**と鳴ります。

❷ **[MONI]**キーを押しながら、**[+]/[−]**キーを押します。
- 表示部に音量を表示します。



2. 通話チャンネルを合わせる(☞P6)

【通話チャンネルが決まっている場合】

[▲](アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例：05)に合わせます。

- 選択範囲：01 ～ 14、16 ～ 30

※ 相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

[▲](アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。

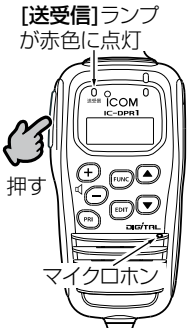
〈呼出用チャンネルについて〉

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、ユーザーコードや秘話機能を使用できません。
「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. [PTT(送信)]スイッチを押す(☞P6)

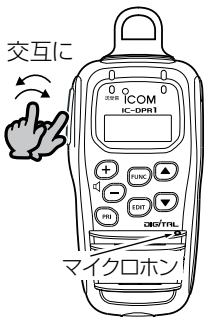
[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。



4. 相手の音声を受信する(☞P7)

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。



5. 通話をつづける(☞P7)

【通話チャンネルが決まっている場合】

送信と受信は交互に繰り返して通話をつづけます。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

❶ 空いている通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)を通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

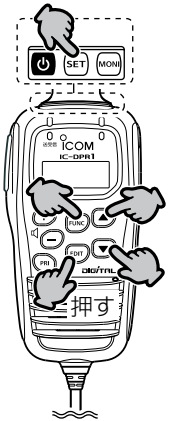
❷ **[▲]**(アップ)キー、または**[▼]**(ダウン)キーを繰り返し押して、相手に伝えた通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

❸ 送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。

◆ バックライトの明るさついて(☞P28)

マイクロホンの液晶、キーのバックライトの明るさを設定します。

❶[SET]キー押して、「セットモード」に移行します。
❷[FUNC]キーまたは[EDIT]キーを繰り返し押して、「輝度」表示を選択します。
❸[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、バックライトの明るさを、1 ～ 7のあいだで設定します。
❹[SET]キーを押すと、選択した設定値を確定し、「セットモード」が解除されます。



SET
輝度　4

◆ 通話チャンネルに設定できる便利な機能

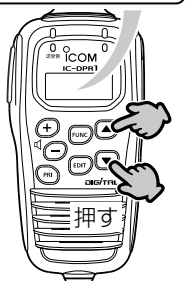
◎ 通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)には、ユーザーコード★、および秘話キー★を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
◎ プライベートチャンネル機能(☞P25)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)の切り替えに便利です。
◎ プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01 ～ CH14、CH16 ～ CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

◆ ユーザーコード(UC)について(☞P10)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH5)に設定します。
❷[FUNC]キーを繰り返し押して、「UC OFF」表示を選択します。
❸[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。
※[EDIT]キーを繰り返し押すと、編集できる桁が点滅します。
[FUNC]キーを押すと、点灯に変わり、確定します。

CH5　H
UC　001



◆ 秘話機能について(☞P13)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH5)に設定します。
❷[FUNC]キーを繰り返し押して、「秘話 OFF」表示を選択します。
❸[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。
❹[EDIT]キーを1回押します。
※2回押したときは、編集できる桁が点滅します。
❺[▲](アップ)キー、または[▼](ダウン)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー (5桁)を設定します。
❻[FUNC]キーを押すと、確定します。

CH5　H
キー　00001

さくいん

数字

30F …… 30
3F …… 30

A

All …… 3

C

CH …… 43
CH15 …… i、2、5、6、16、43
CON …… 30

E

EDIT …… 1

F

FUNC …… 2

M

MID …… 31
MIN …… 30
MONI …… 2、23

P

PIー …… 30
PPP …… 30
PScn …… 36
PTT …… 1
PvCH …… 35
Pビープ …… 17、28、30

S

Scn …… 28
SkyR …… 28
S1～S5 …… i、4、36、38、43

U

UC …… 10

V

VOL …… 35

う

運転 …… iv

お

音量調整 …… 5

か

干渉 …… 9
感度 …… 31

き

キーロック …… 23
キャリアセンス …… 9

く

グリスト …… 33
グループ呼び出し …… 16

さくいん

こ

故障…… 41、42
個別…… 32
個別呼び出し…… 16、32
混信…… 9

し

自局番号…… 17、19、32
周波数…… 43
修理…… 42
終話…… 20、34
終表…… 34
受信…… 7
受信専用…… 4
上空用チャンネル…… i、4、36、38、43
詳細セットモード…… 28、29
初期状態に戻す(リセットする)には …… 39

す

スキャン…… 36

せ

セットモード…… 28
全局呼び出し…… 3、16、19、21、22
全設定初期化(リセット) …… 39

そ

送信…… 6
送信時間制限装置…… 9
送信出力…… 1、24

ち

着信履歴機能…… 27
注意事項…… ix

つ

通話チャンネル…… 6、19
通話範囲…… 9

て

定格…… 45
電波法…… iii
電波利用料…… iii

と

盗聴…… 13
登録申請…… iii

の

納入告知書…… iii
納付…… iii

は

バックライト…… 28、31

ひ

表示部…… 3
秘話…… 31
秘話キー…… 14
秘話機能…… 14

ふ

付属品…… ii
プライベートチャンネル機能…… 25
プライベートチャンネルスキャン機能…… 26

へ

別売品…… 44

ほ

包括登録申請…… iii
ポケットビープ機能…… 24
保証…… 42

ま

マイクG…… 31
マイクゲイン…… 31

め

免許…… iii
メンバー指定…… 18

も

モニター機能…… 23

ゆ

ユーザーコード…… 10

よ

呼出…… 6、16
呼出用チャンネル…… i

ら

ランプ…… 1

り

リセット…… 28、39

ろ

ロック機能…… 23、35

わ

話後…… 38

高品質がテーマです。

A-6792H-1J-②
Printed in Japan
© 2009–2011 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32